

スポーツ少年団指導者の 救急対応に関する経験・認識の実態調査 報告書



IBU
INTERNATIONAL
BUDO
UNIVERSITY

2022年3月

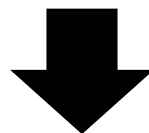
公益財団法人日本スポーツ協会 日本スポーツ少年団
国際武道大学 コンディショニング科学研究室

目次

- 1) 調査概要 1
- 2) 結果 4
 - 2-1) 対象者の基本的属性 4
 - 2-2) 救急対応に関する経験 11
 - 2-3) 救急対応に関する認識 15
- 3) まとめ 21
- 4) 参考文献 22

調査目的

スポーツ少年団指導者における
救急対応に関する経験・認識の実態を把握すること



少年団指導者を対象とした救急対応の講習会の検討など、
将来的に安全なスポーツ環境を構築するための一助とする

調査概要

対象者

全国の単位スポーツ少年団に在籍している指導者 4,408名

調査期間

2021年10月28日～2021年11月30日 計 34日間

調査方法

Google formを用いたウェブ上でのアンケート調査

調査内容

①対象者の基本的属性(記述形式・選択形式)

▶性別, 年齢, 最終学歴, 指導歴, 対象年代, 指導日数, 保有資格, 指導競技
ケガや疾病に関する課題, ケガや疾病への実施内容, 救急対応の情報源

②救急対応に関する経験(選択形式)

▶現場での救急対応経験, 救急対応に関連した講習会の受講経験

③救急対応に関する認識(選択形式)

▶救急対応に対する自信[傷害分類別の自信の有無], 救急対応に関する知識

調査概要

実施体制

本調査は、日本スポーツ協会日本スポーツ少年団と国際武道大学との共同研究により実施した

- ▶ 日本スポーツ協会日本スポーツ少年団
(日本スポーツ協会地域スポーツ推進部少年団課)
 - ▶ 国際武道大学コンディショニング科学研究室
- | | |
|------|-------|
| 教授 | 山本 利春 |
| 教授 | 笠原 政志 |
| 特任助教 | 清水 伸子 |
| 専門嘱託 | 佐野 颯斗 |

結果

分析対象

有効回答：全ての回答に欠損のない指導者 4,382名(99.4%)

対象者の基本的属性

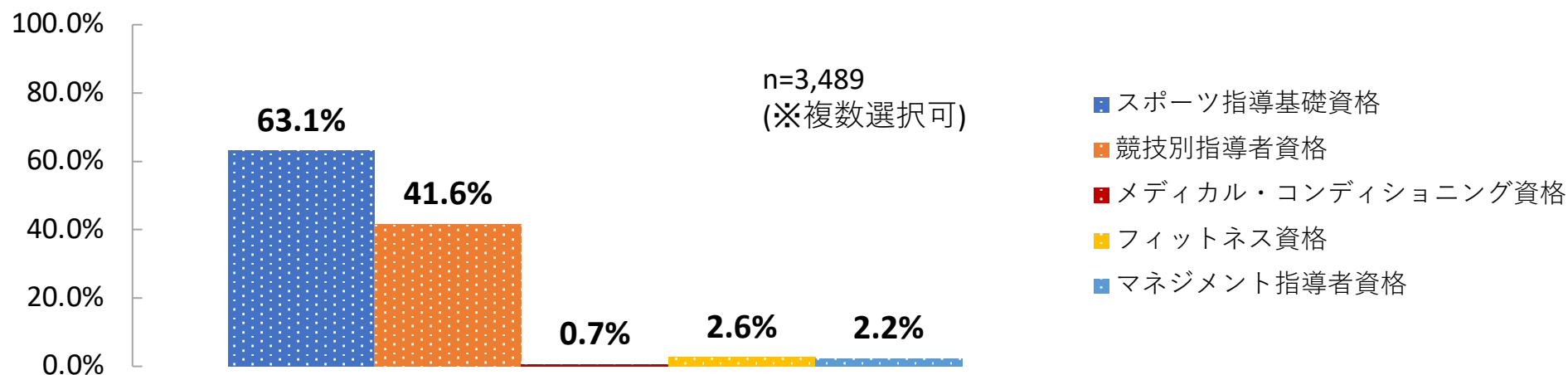
カテゴリ	選択肢	人数(名)	割合
性別	男性	3,930	89.7%
	女性	452	10.3%
年齢	平均±標準偏差(中央値)	50.1±10.8(49.0)	
最終学歴	高等学校	1,823	41.6%
	専門学校	537	12.3%
	短期大学	211	4.8%
	体育・スポーツ系大学	167	3.8%
	その他の大学	1,594	36.4%
	その他	50	1.1%
指導歴(児童)	平均(±標準偏差)	14.3(±11.3)	
対象年代	小学生未満(未就学児)	1,295	29.6%
※複数選択	小学生低学年(1-3年生)	3,927	89.6%
	小学生高学年(4-6年生)	4,176	95.3%
	中学生(1-3年生)	1,475	33.7%
	その他	371	8.5%

カテゴリ	選択肢	人数(名)	割合	
指導日数	週5回以上	294	6.7%	
	週2-4回	3,313	75.6%	
	週1回	501	11.4%	
	月に2-3回程度	163	3.7%	
	2-3ヶ月に1回程度	28	0.6%	
	4-6ヶ月に1回程度	12	0.3%	
	1年に1回	3	0.1%	
	数年に1回	1	0.0%	
スポーツ指導者関連資格	有り	3,489	79.6%	
	無し	893	20.4%	
	救急対応関連資格	有り	1,585	36.2%
		無し	2,797	63.8%

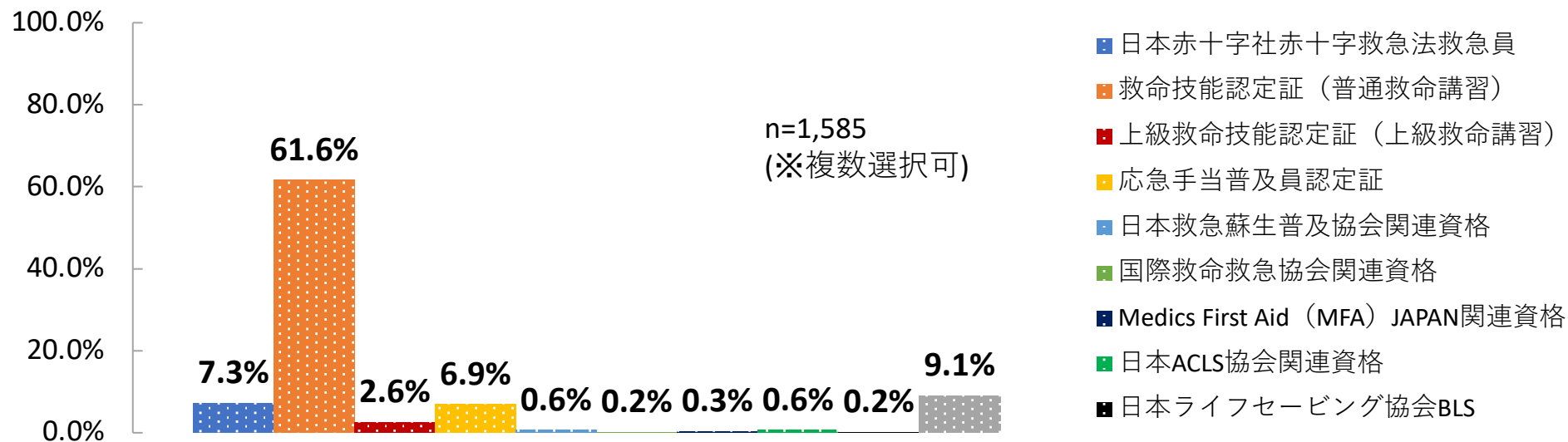
n=4382

結果

《公認スポーツ指導者資格》



《救急対応関連資格》



結果

《対象者の指導競技》

カテゴリ	選択肢	人数(名)	割合
指導競技	野球(軟式・硬式)	1,206	27.5%
※複数選択	サッカー	605	13.8%
	バスケットボール	600	13.7%
	バレーボール	520	11.9%
	剣道	375	8.6%
	空手道	174	4.0%
	その他	170	3.9%
	ソフトボール	163	3.7%
	柔道	139	3.2%
	バドミントン	133	3.0%
	陸上競技	105	2.4%
	少林寺拳法	102	2.3%
	テニス(軟式・硬式)	90	2.1%
	卓球	81	1.8%
	水泳	40	0.9%
	スキー	38	0.9%
	ラグビーフットボール	36	0.8%
	複合種目	35	0.8%
	体操	30	0.7%
	ハンドボール	20	0.5%



順位	競技種目	順位	競技種目
1	軟式野球	11	柔道
2	サッカー	12	ソフトボール
3	複合種目	13	ソフトテニス
4	バレーボール	14	卓球
5	剣道	15	少林寺拳法
6	ミニバスケットボール	16	競泳
7	空手道	17	その他
8	バスケットボール	18	ラグビーフットボール
9	陸上競技	19	野球(硬式)
10	バドミントン	20	ハンドボール

表. 令和3年度スポーツ少年団登録状況(種目別団員数)

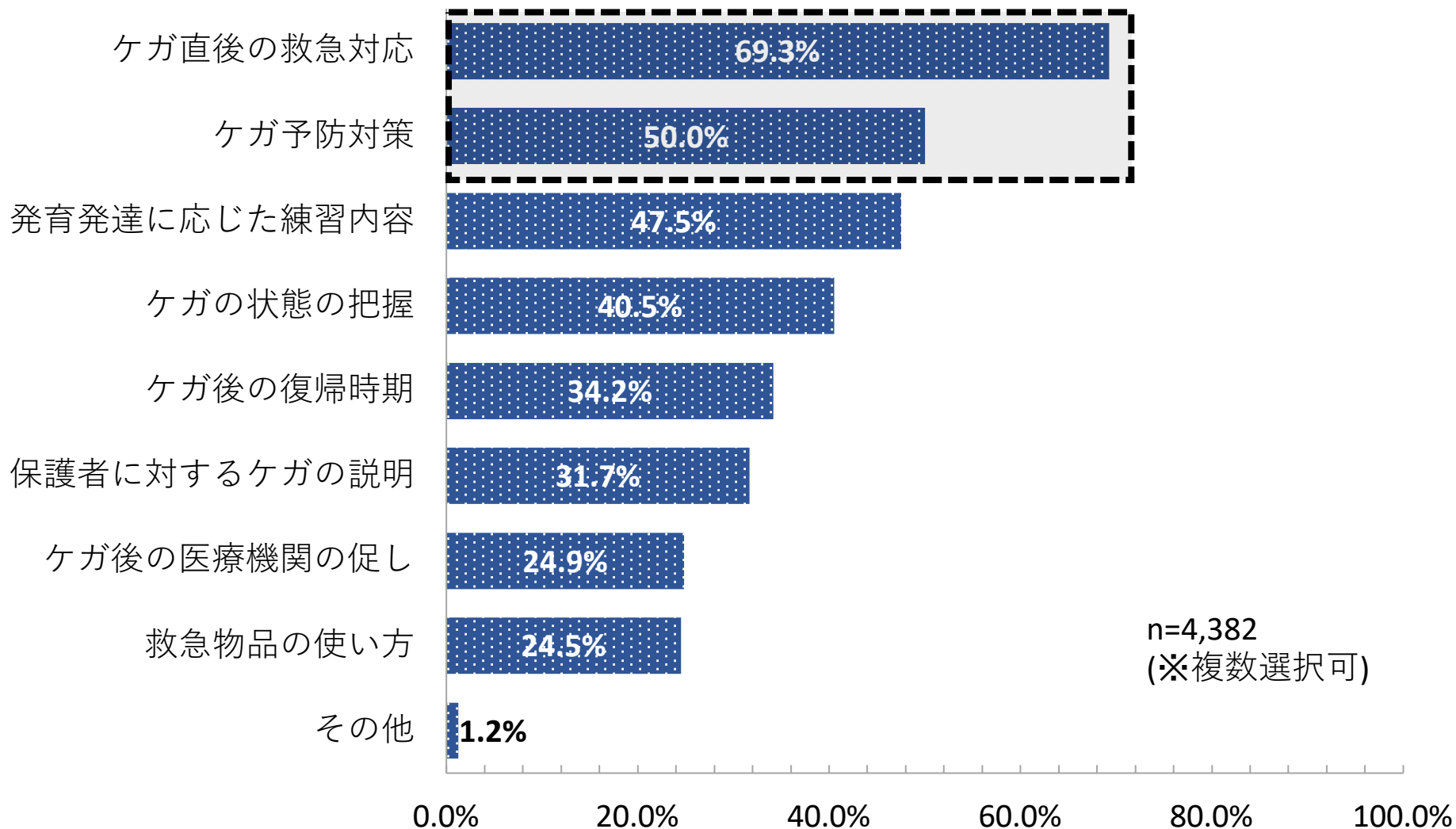
割合の高い順で整理すると、
左の表と近似した順番となっている

【本調査と異なる点】

- ・ 軟式と硬式を区別している
- ・ 種目別団員数でみた順番である

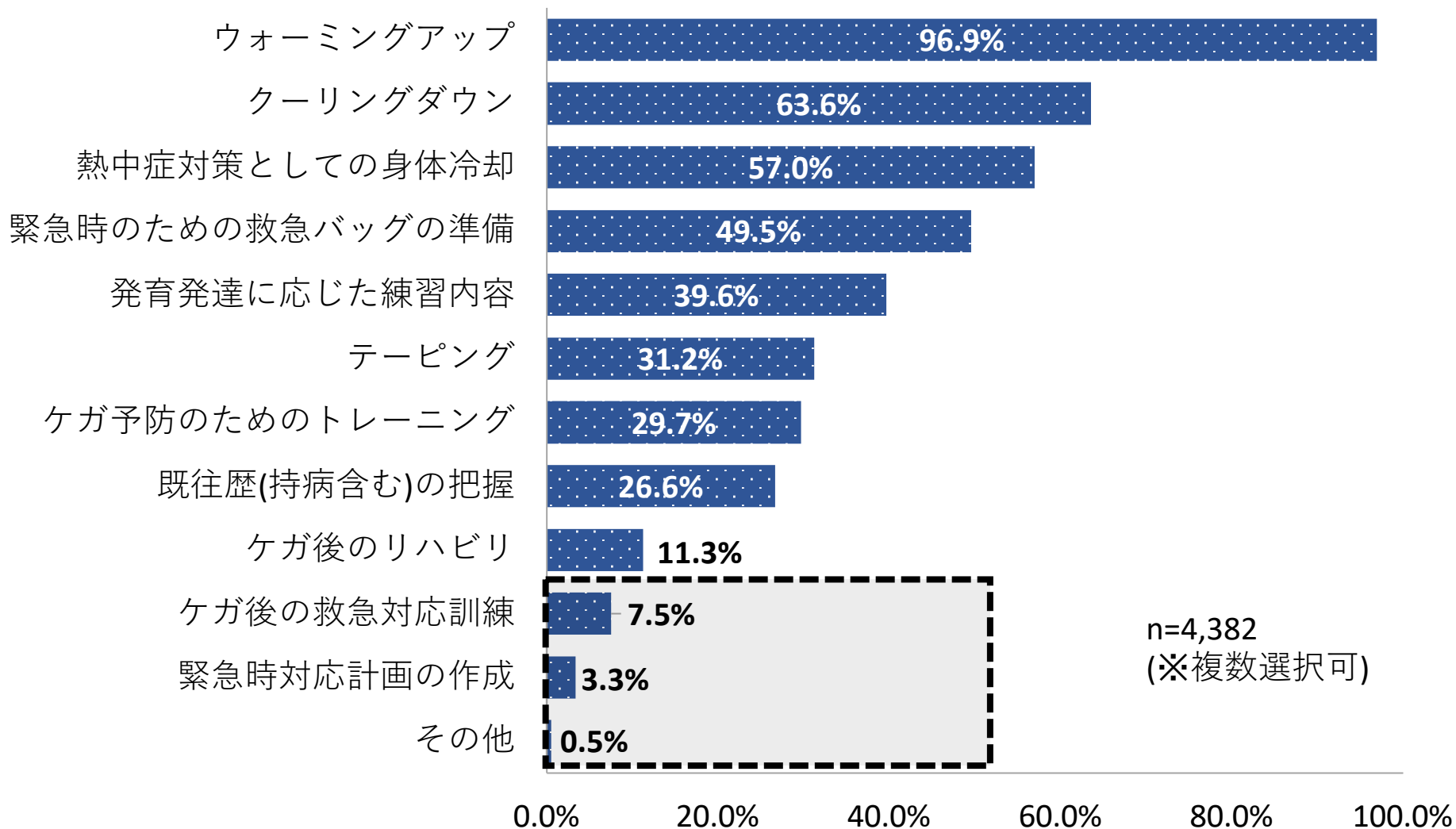
結果

《ケガや疾病に関する課題》



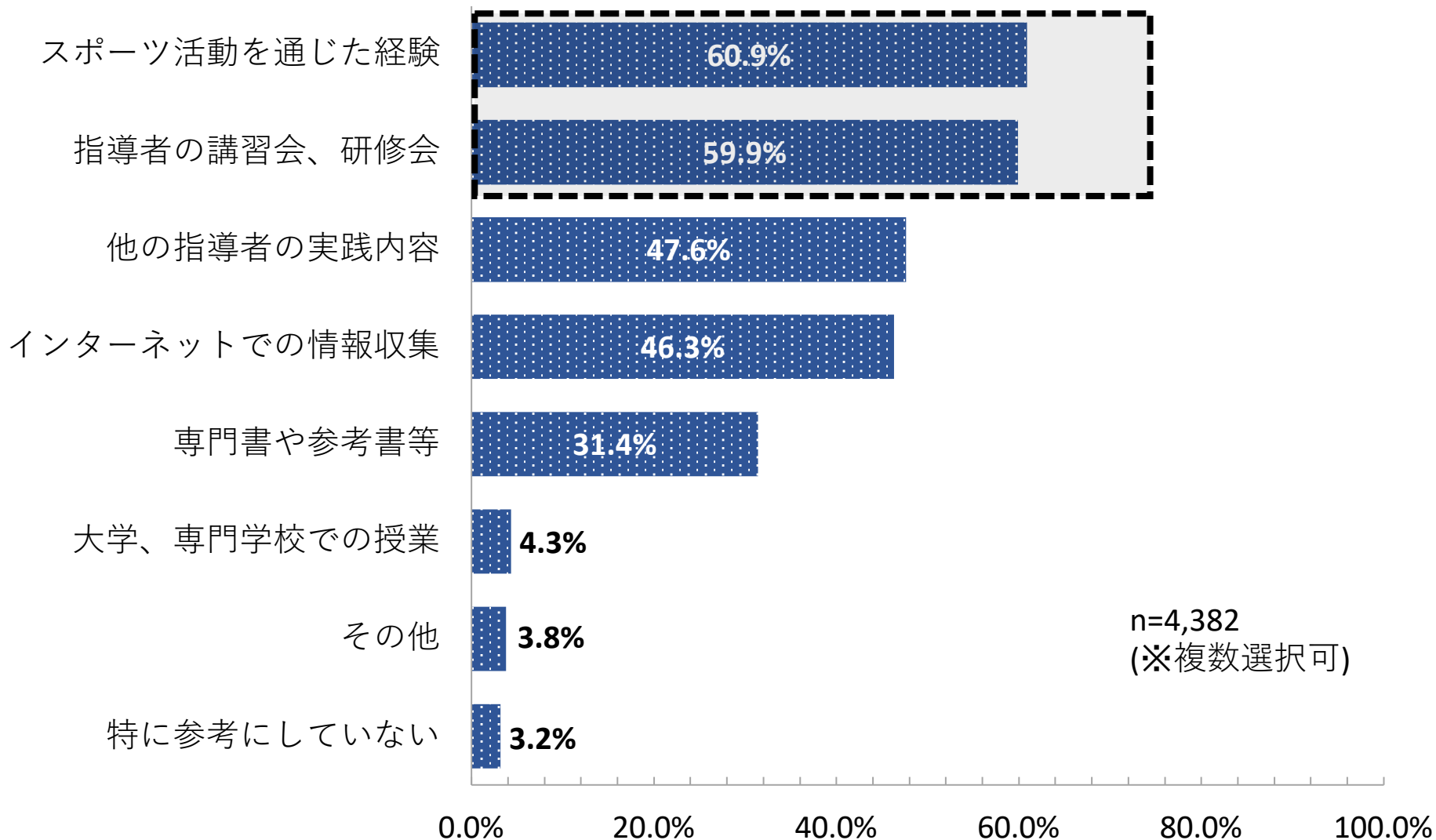
結果

《ケガや疾病に対する実施内容》



結果

《救急対応に関する情報源》



基本的属性からみた結果

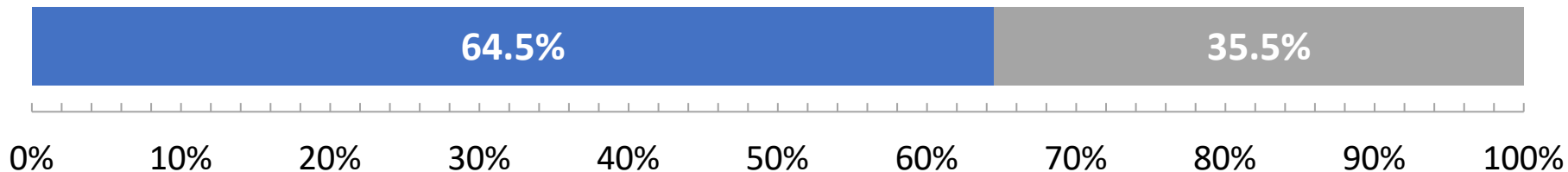
- 1 平均年齢50.1(±10.8)歳と、対象の年齢層が比較的高い**
 - ・最終学歴が高卒の者が多い→回答者の年齢層が高いため？
 - ・情報源のうち、「大学、専門学校での授業」が少ない
- 2 指導者関連の資格保持者は79.6%と多いものの、救急対応関連の資格保持者はその半分程度しか存在しない**
- 3 約7割の者が傷害発生後の救急対応に対して課題を抱え、救急対応訓練や緊急時対応計画の作成を行う者は1割以下**
 - ・そもそも訓練法や作成方法に関する学習機会が少ない？
- 4 救急対応に関する情報源では、自分自身のスポーツ経験と同率で、指導者の講習会・研修会が挙げられている**
 - ・救急対応に関する講習会を組み込む事により、そこでの情報を救急対応に繋げてくれる可能性がある？

結果

救急対応に関する経験

n=4,382

《現場での救急対応経験》



■ 有り ■ 無し

カテゴリ	選択肢	人数(名)	割合
救急対応経験のある傷害 ※複数選択	捻挫	2,087	73.8%
	熱中症	1,900	67.2%
	挫傷/打撲	1,734	61.3%
	創傷	1,172	41.5%
	骨折	986	34.9%
	関節・筋腱・骨障害	404	14.3%
	脱臼	351	12.4%
	頭頸部外傷[脳振盪]	263	9.3%
	その他	79	2.8%
	心臓疾患	30	1.1%

n=2,827

	順位	負傷・疾病の種類
小学校	1	挫傷・打撲
	2	骨折
	3	捻挫
中学校	1	骨折
	2	挫傷・打撲
	3	捻挫

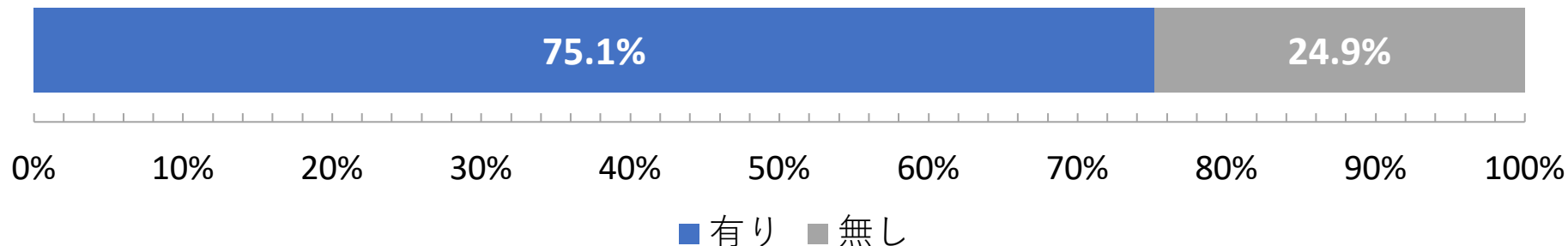
表. 学校の管理下の災害[令和3年版]

学校生活で発生した
負傷・疾病も含む

結果

《救急対応関連講習会の受講経験》

n=4,382



頻度

内容

動機

カテゴリ	選択肢	人数(名)	割合
受講頻度	これまでに1回のみ	768	23.3%
	月に1回以上	22	0.7%
	半年に1回以上	81	2.5%
	年に1回	697	21.2%
	不定期	1,725	52.4%

n=3,293

定期的に
受講している群

800名(18.3%)

※全数での割合を示す

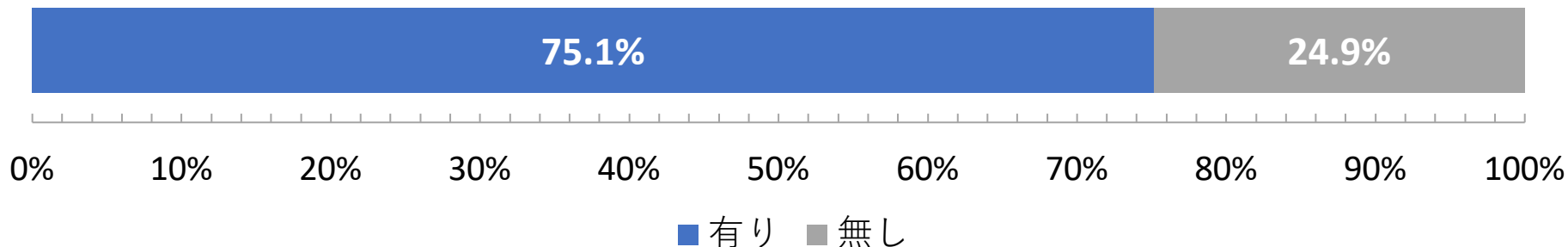
定期的に講習会を受講している者は全体のうち2割程度

▶理想は年1回だが、資格や免許の種類で更新期間は異なる

結果

《救急対応関連講習会の受講経験》

n=4,382



頻度

内容

動機

カテゴリ	選択肢	人数(名)	割合
受講内容	心停止への対応	3,006	91.3%
※複数選択	熱中症への対応	2,357	71.6%
	捻挫/肉離れ/打撲への対応	1,672	50.8%
	骨折/脱臼への対応	1,273	38.7%
	皮膚にキズのある場合の対応	1,075	32.6%
	頭頸部外傷への対応	644	19.6%

n=3,293

生命に危険を及ぼす事故



HEAT

HEAD

HEART



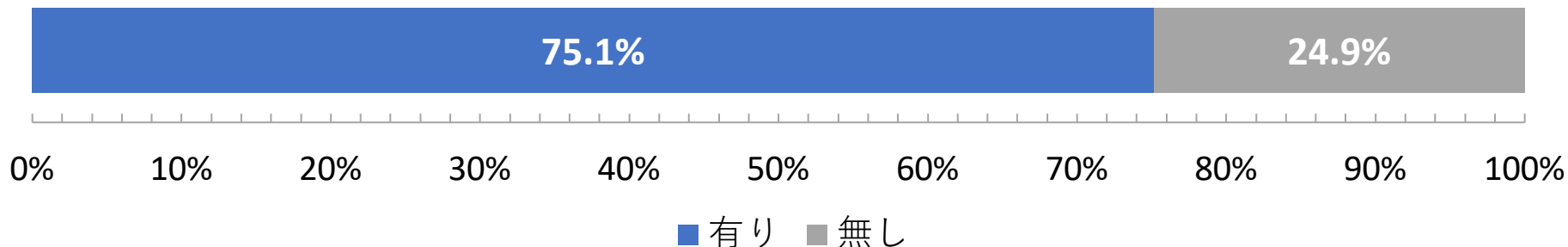
受講内容の割合が低い

骨折/脱臼、創傷、頭頸部外傷に関する講習会の受講率は低い
▶上記のケガに関する講習会の開催が少ないことが原因？

結果

《救急対応関連講習会の受講経験》

n=4,382



頻度

内容

動機

カテゴリ	選択肢	人数(名)	割合
受講動機	自己研鑽	1,427	43.3%
※複数選択	指導現場での必要性	2,077	63.1%
	企業等の研修内容	940	28.5%
	資格取得	646	19.6%
	その他の認定研修	551	16.7%
	その他	166	5.0%
n=3,293	知り合いの勧奨	116	3.5%

全体の約半数の指導者が現場での必要性を感じる



指導者の多くが「指導現場での必要性」を動機としている
▶ 救急対応について、学ぶ必要性を感じている者が多い？

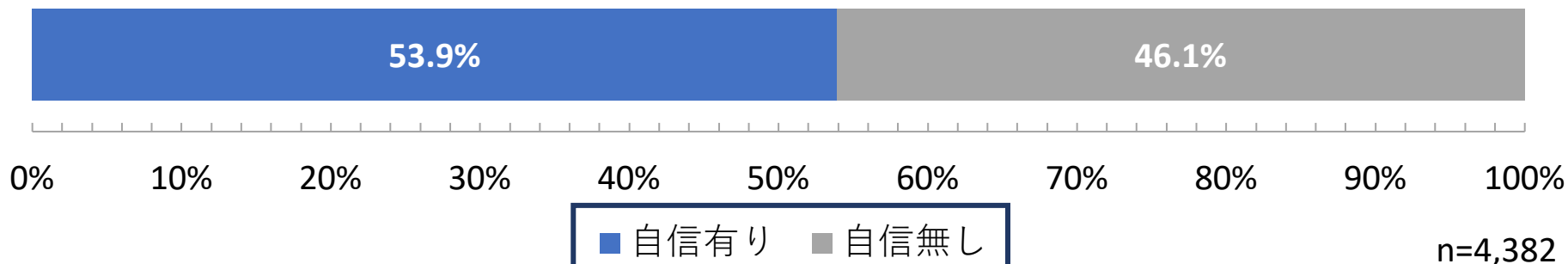
結果

救急対応に関する認識

《救急対応に対する自信》

※**自信有り** = 自信をもって対応できる
 どちらかという自信をもって対応できる

自信無し = 自信をもって対応できない
 どちらかという自信をもって対応できない



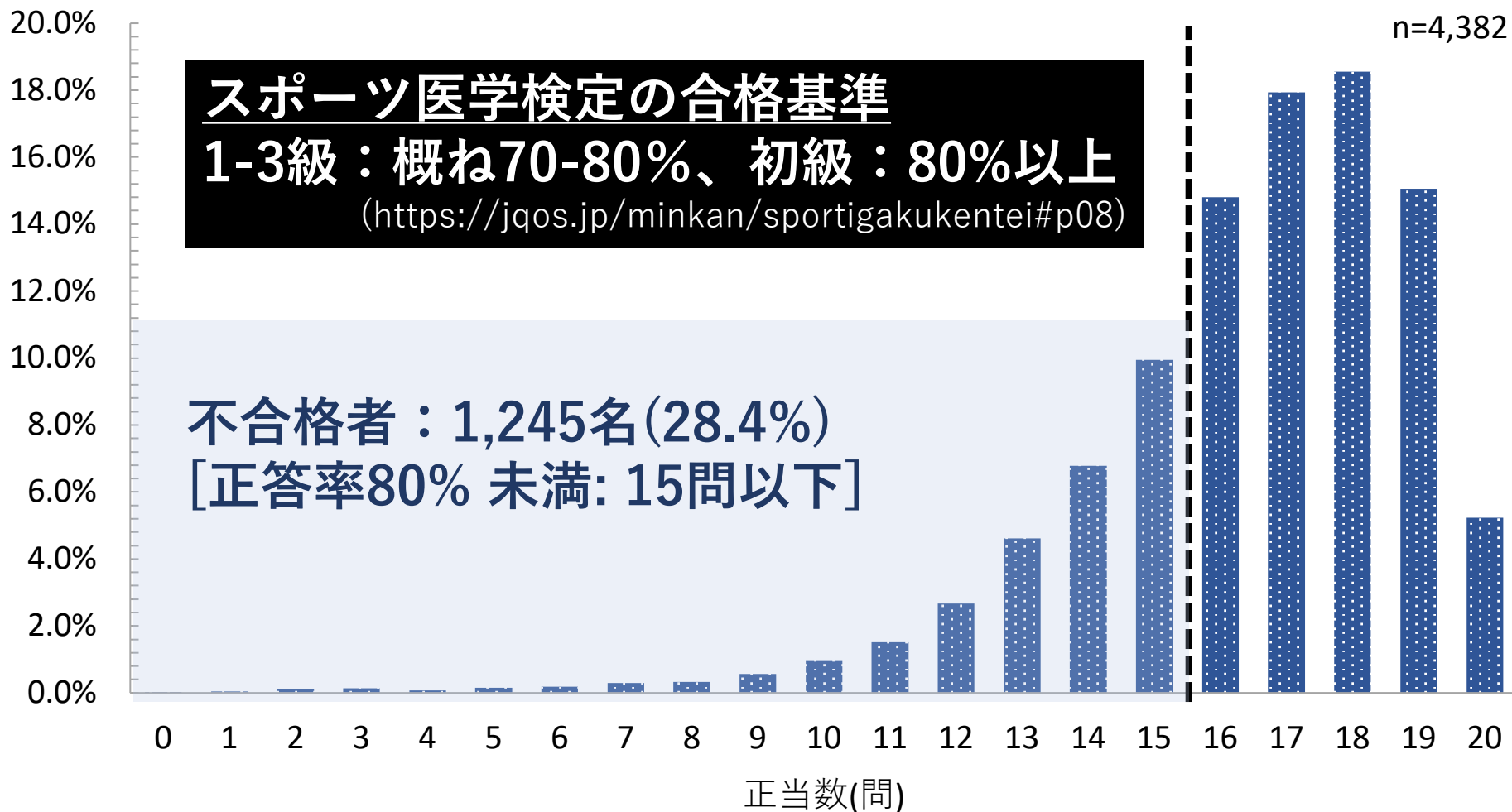
カテゴリ	選択肢	人数(名)	割合	カテゴリ	選択肢	人数(名)	割合
心停止への対応	自信有り	2,279	52.0%	頭頸部外傷への対応	自信有り	1,039	23.7%
	自信無し	2,103	48.0%		自信無し	3,343	76.3%
捻挫/肉離れ/打撲への対応	自信有り	2,997	68.4%	熱中症への対応	自信有り	3,527	80.5%
	自信無し	1,385	31.6%		自信無し	855	19.5%
皮膚にキズがある場合の対応	自信有り	3,277	74.8%	歯・口の外傷への対応	自信有り	1,344	30.7%
	自信無し	1,105	25.2%		自信無し	3,038	69.3%
骨折/脱臼への対応	自信有り	1,621	37.0%	眼の外傷への対応	自信有り	842	19.2%
	自信無し	2,761	63.0%		自信無し	3,540	80.8%

※青枠で示しているカテゴリ=自信無しと回答した割合が50%以上存在したカテゴリ

結果

《救急対応に関する知識》

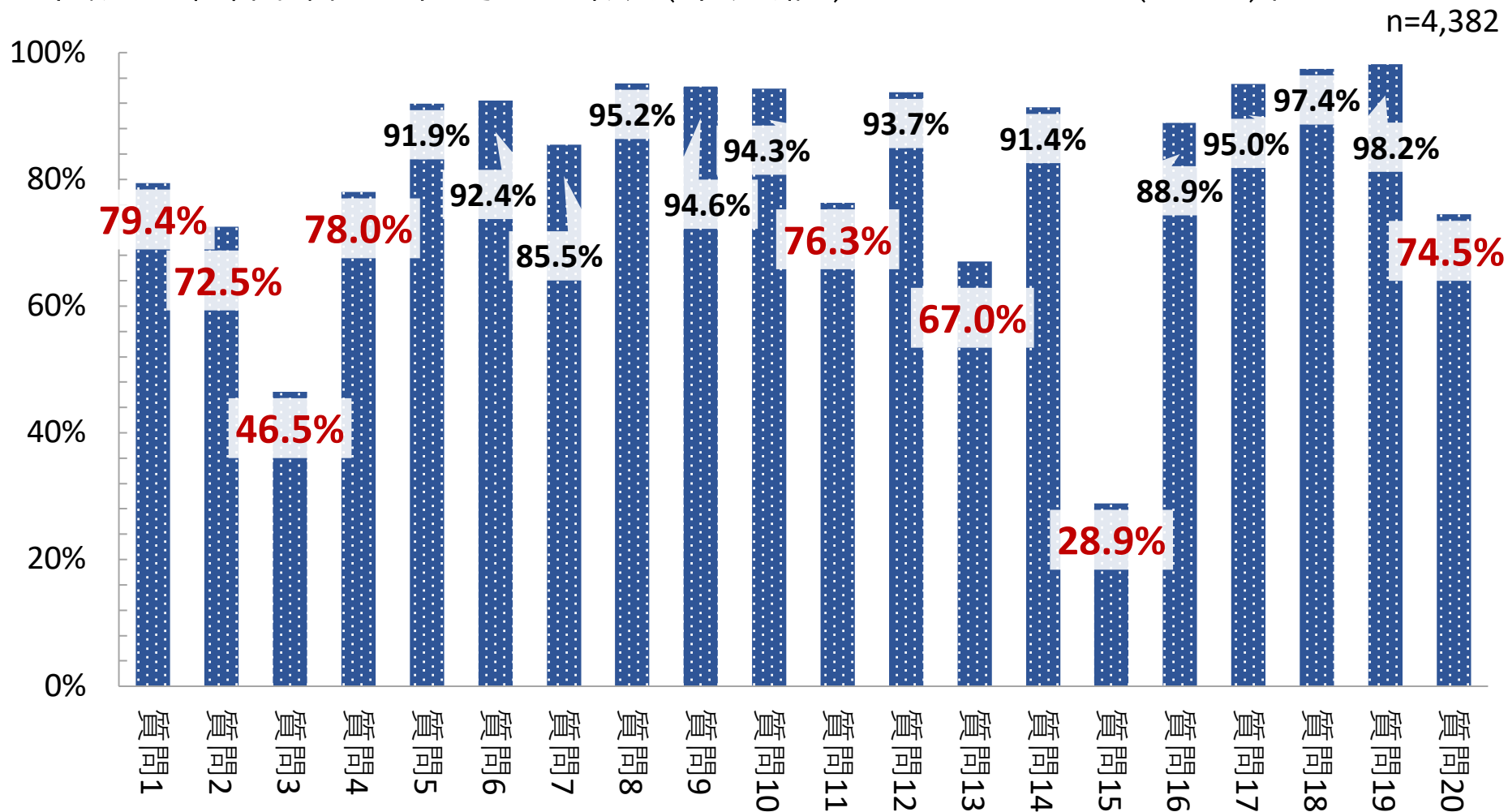
本調査回答者の平均正當数(中央値)：16.4 ± 2.6(17.0)問



結果

《救急対応に関する知識》

本調査回答者の平均正答数(中央値)：16.4 ± 2.6(17.0)問



《本調査で用いた20項目の設問》

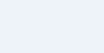


	質問内容(4つの選択肢から選択形式)	正当者数	正答率
質問1	スポーツ現場のケガ(スポーツ外傷)に対する応急手当のRICE処置は、4つの処置の英語の頭文字を並べたものです。これらの処置の英語と日本語の組み合わせとして、「適切でないもの」を選択してください。	3480	79.4%
質問2	切り傷や擦り傷などの創傷の処置として「適切なもの」を選択してください。	3179	72.5%
質問3	鼻出血に関する記述として、「適切なもの」を選択してください。	2037	46.5%
質問4	肉離れに関する記述として「適切なもの」を選択してください。	3419	78.0%
質問5	脳振盪を起こした後の対応として、「適切なもの」を選択してください。	4029	91.9%
質問6	脳振盪は、あらゆるスポーツで起こり得ます。脳振盪の症状として「適切でないもの」を選択してください。	4050	92.4%
質問7	脳振盪に関する記述として「適切なもの」を選択してください。	3745	85.5%
質問8	頭部外傷はコンタクトプレーが多いスポーツで発生しやすいことが知られています。頭部外傷の記述として、「適切なもの」を選択してください。	4170	95.2%
質問9	熱中症の予防には水分のみでなく、塩分の補給が重要です。熱中症の症状として、「適切でないもの」を選択してください。	4147	94.6%
質問10	熱中症に関する記述として、「適切なもの」を選択してください。	4132	94.3%
質問11	熱中症の対応・予防策として、「適切でないもの」を選択してください。	3343	76.3%
質問12	熱中症は暑さで生じる障害の総称です。熱中症の記述として、「適切でないもの」を選択してください。	4107	93.7%
質問13	心肺蘇生法において1分間に行う胸骨圧迫の「適切な回数」を選択してください。	2936	67.0%
質問14	AEDの使用方法として、「適切でないもの」を選択してください。	4003	91.4%
質問15	心肺蘇生に関する記述として「適切なもの」を選択してください。	1265	28.9%
質問16	マラソン大会においては、心肺停止が生じることを想定して、迅速に対応できる救護体制を整えておく必要があります。心肺蘇生時における処置として、「適切でないもの」を選択してください。	3896	88.9%
質問17	バスケットボールの練習中、Eさんが着地に失敗してバランスを崩し、左手をついて転倒しました。指導者が駆け寄ると、Eさんの左前腕は明らかに変形し、骨折が疑われました。指導者の行動として「適切でないもの」を選択してください。	4164	95.0%
質問18	勝利すれば全国大会出場が決まる少年サッカー大会の決勝戦前半のセットプレーで、Fさんが相手選手と接触して頭を打ち、その後から頭痛、めまい、吐き気がするとハーフタイムに指導者に自ら訴えました。指導者の対応として「適切なもの」を選択してください。	4270	97.4%
質問19	7月半ばの晴れた日に、野球の練習をしていたEさんは、練習開始1時間後に頭痛とめまいを感じ、その後一回嘔吐しました。この後の対応として、「適切なもの」を選択してください。	4302	98.2%
質問20	持久走を行っていたDさんが、走行中に突然倒れました。チームメイトが指導者を呼び、駆けつけた指導者が、Dさんに近付き声をかけたものの反応はなく、呼吸も停止していました。指導者は人を集め、救急車を呼ぶこと、AEDを持ってくることを指示しつつ、胸骨圧迫を開始しました。胸骨圧迫の方法として「適切でないもの」を選択してください。	3263	74.5%

結果

《救急対応に関する知識》

本調査回答者の平均正当数(中央値)：16.4 ± 2.6(17.0)問

	質問内容(4つの選択肢から選択形式)	正当者数	正答率
質問1	スポーツ現場のケガ(スポーツ外傷)に対する応急手当のRICE処置は、4つの処置の英語の頭文字を並べたものです。これらの処置の英語と日本語の組み合わせとして、「適切でないもの」を選択してください。	3,480	79.4%
質問2	切り傷や擦り傷などの創傷の処置として「適切なもの」を選択してください。	3,179	72.5%
質問3	鼻出血に関する記述として、「適切なもの」を選択してください。	2,037	46.5%
質問4	肉離れに関する記述として「適切なもの」を選択してください。	3,419	78.0%
質問11	熱中症の対応・予防策として、「適切でないもの」を選択してください。	3,343	76.3%
質問13	心肺蘇生法において1分間に行う胸骨圧迫の「適切な回数」を選択してください。	2,936	67.0%
質問15	心肺蘇生に関する記述として「適切なもの」を選択してください。	1,265	28.9%
質問20	持久走を行っていたDさんが、走行中に突然倒れました。チームメイトが指導者を呼び、駆けつけた指導者が、Dさんに近付き声をかけたものの反応はなく、呼吸も停止していました。指導者は人を集め、救急車を呼ぶこと、AEDを持ってくることを指示しつつ、胸骨圧迫を開始しました。胸骨圧迫の方法として「適切でないもの」を選択してください。	3,263	74.5%

※  :その他に関する問題  :熱中症に関する問題  :心停止に関する問題

救急対応の経験・認識からみた結果

- 1 半数以上の指導者が現場での救急対応経験を有している
 - ・特に、軽度な外傷・障害への対応経験が多い
 - これらの的確な対応方法を理解しておく必要がある
- 2 講習会内容は心停止への対応[一次救命処置]が大半を占め、頭頸部外傷や骨折/脱臼への対応の学習機会は少ない
- 3 軽度な外傷・障害への対応経験を有する者は多いものの、それらに対する問題の正答率はあまり高くない
 - ・適切な知識をもって、対応できていない可能性がある
- 4 救急対応に対する自信の有無に関して、頭頸部や顔(眼や口・歯)への対応に自信が無い者が多い
 - ・これらの内容を講習会で扱っているケースが少ない?

まとめ

目的

スポーツ少年団指導者における
救急対応に関する経験・認識の実態を把握すること

全国の単位スポーツ少年団に在籍している指導者 4,408名



男性指導者9割/主な指導対象：小学生/平均年齢が高い[50.1歳]

現場で救急対応を行う可能性高



自信・知識を有する者不十分

《今後の課題》



最低限、**生命に関わる事故**に対する的確に対処する必要がある

参考文献

公益財団法人日本スポーツ協会: “スポーツ少年団現況調査報告書日本スポーツ少年団登録データ(2002年～2014年)”, (2016),

https://www.japansports.or.jp/Portals/0/data/syonendan/doc/jjsa_report_2016.pdf.

石郷岡旭, 山本利春, 笠原政志: “高等学校運動部活動におけるスポーツトレーナー介入の実態に関する研究”, 日本アスレティックトレーニング学会誌, (2017), Vol.2, 125-132.

佐野颯斗, 山本利春, 笠原政志: “児童を対象とした学校外スポーツクラブの指導者における救急対応に関する認識と経験の実態調査”, 国際武道大学大学院武道・スポーツ研究科学位論文, (2019).

山本利春, 笠原政志, 清水伸子: “学校現場におけるスポーツ外傷・障害に対する救急対応の現状と課題”, 日本アスレティックトレーニング学会誌, (2020), Vol.5, 101-108.

独立行政法人日本スポーツ振興センター学校災害防止調査委員会: “学校管理下における体育活動中の事故の傾向と事故防止に関する調査研究”, (2013).

独立行政法人日本スポーツ振興センター: “学校の管理下の災害(令和三年度版)”, (2019)

https://www.jpnsport.go.jp/anzen/Portals/0/anzen/anzen_school/R3_gakko_kanrika_saigai/R3saigai_04.pdf.

中央教育審議会: “新しい時代の教育に向けた持続可能な学校指導・運営体制の構築のための学校における働き方改革に関する総合的な方策について”, 文部科学省, (2019).